

旧石器・縄文時代

縄文

弥生

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

江戸

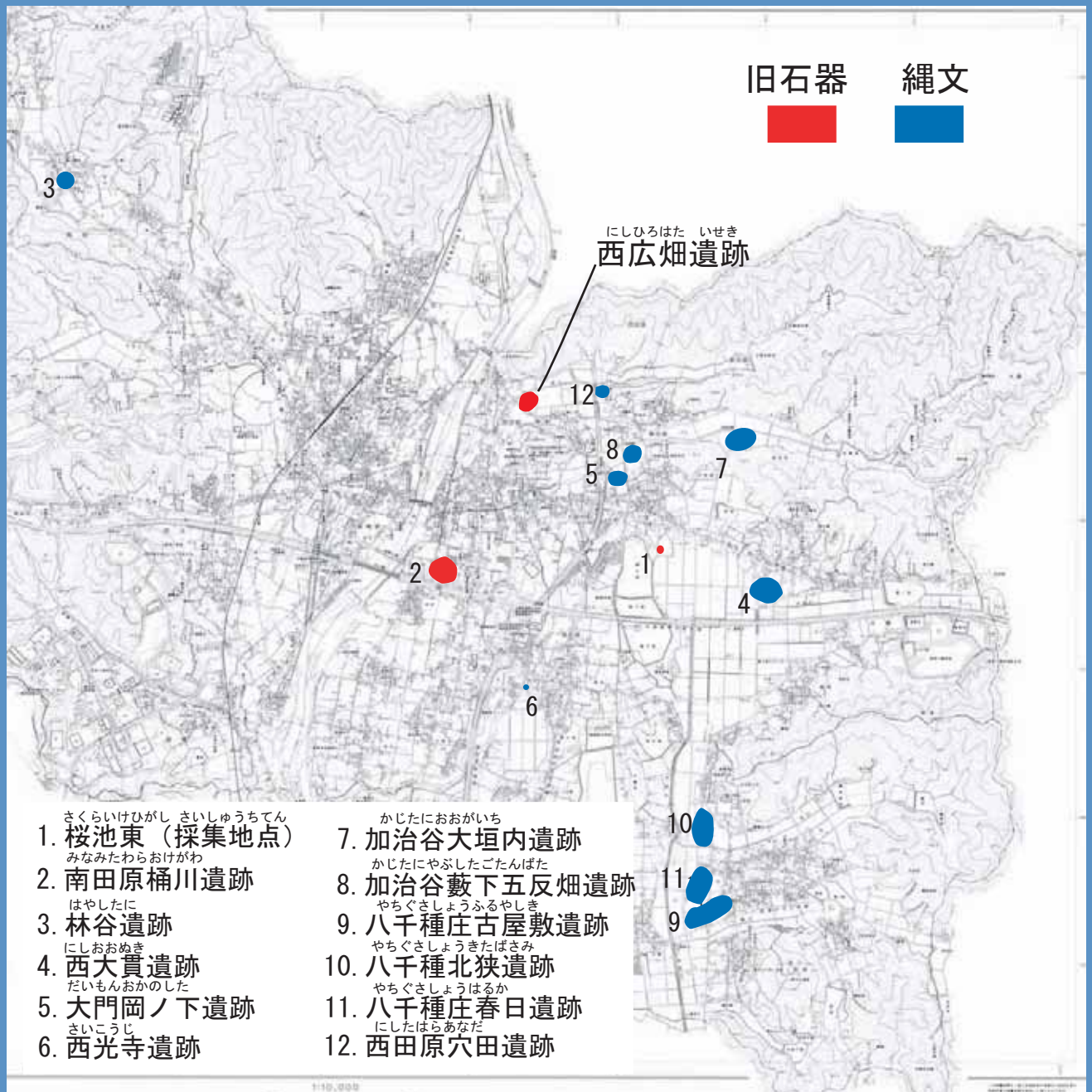
明治

大正

昭和

福崎町内では、人がいたと確認できる時代は、旧石器時代からです。今から約3万～1万年前です。旧石器時代の遺物は、西広畑遺跡、桜池東から人が石から作り出した石器が見つっています。また当時は、棒の先端の尖った石器を巻きつけ、大型動物を捕獲したと考えられる石器も見つっています。この石器を発見したのは、なんと田原小学生5年生の2人です！

縄文時代には、九州南方の鬼界カルデラ大噴火が始まり、九州、中四国までアカホヤの火山灰（約7300年前）が降下し、福崎町内でも堆積が確認されています。縄文時代になると遺跡がたくさん見つかり市川沿いではなく、小さい川の近くで山すそ側に住んでいる様子が分かります。また八千種庄春日遺跡や古屋敷遺跡や八千種庄北狭遺跡からは動物を捕獲するための落とし穴跡が発見されています。また縄文人が住んでいた住居跡や使用していた土器などが見つっています。



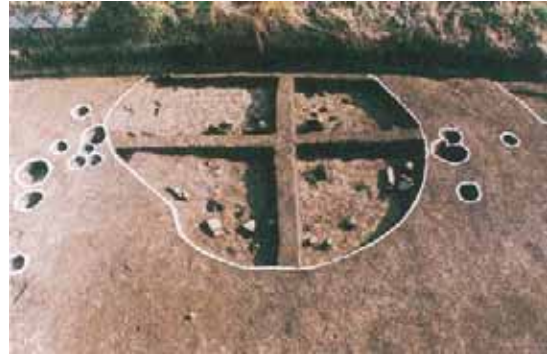


旧石器時代の最終末から縄文時代初頭（今から約8000年前）にかけて作られた有舌尖頭器は石槍のひとつです。

いしやり
石槍とは、石を割って尖らせ動物の骨などで削り仕上げた打製石器の鋭い刃を持ち、長い棒の先端に巻き付け棒ごと投げて大型動物を捕獲していた。大型動物の確保は難しく集団で狩猟を行っていたと考えます。



ゆうぜつせんとうき
有舌尖頭器
(西光寺地区)



だいまんおかのしたいせき
大門岡ノ下遺跡
(縄文時代晩期の竪穴住居跡)
ばんき たてあなじゆうきよあと

◆縄文土器◆



にしおぬきいせき
西大貫遺跡
(縄文時代前期)



みなみたわらながめいせき
南田原長目遺跡
(縄文時代前期中頃)



かじたにごたんばたいせき
加治谷五反畑遺跡

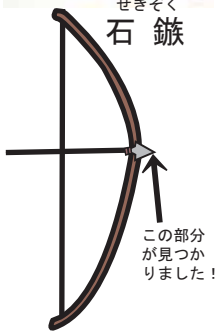


だいまんおかのしたいせき
大門岡ノ下遺跡
(縄文時代晩期)

縄文土器は、竹や貝殻や指を使って模様を付けています。



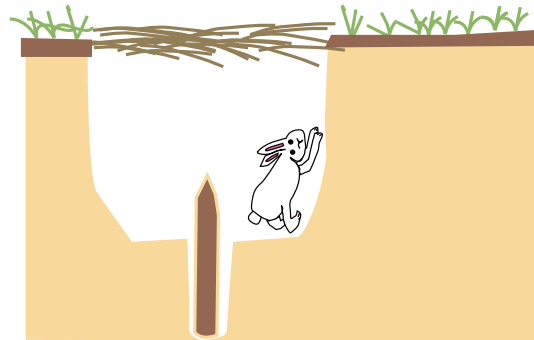
せきぞく
石鏃



縄文時代に入ると小型のシカやイノシシなど、素早くはねる動物を捕らえるのに弓矢が発達してきました。弓矢の先端に石を尖らせた石鏃を付けて獲物を捕まえていた。



やちぐさしょうふるやしきいせき
八千種庄古屋敷遺跡
落とし穴（上から）



落とし穴イメージ図（横断面）

◆落とし穴（縄文時代）◆

縄文時代の八千種では、たくさんの落とし穴が見つっています。その場所は、山から少し下った旧平田川に近い平野部で落とし穴が見つっています。おそらく動物たちが水を飲むために山から下り川へと行く途中の場所を想定して落とし穴を作ったと考えられます。

